

開催地名：東京都港区	
開催日時	令和2年12月22日（火） 9：45～12：15
開催場所	港区立御成門小学校
語り部	吉田 亮一（宮城県仙台市）
参加者	御成門小学校 4・5・6年児童 約180名
開催経緯	本校では、コロナ禍ということもあり、学校全体で行動する防災に関する指導が継続的に行えずにいる。また、これまで育ててきた防災に関する意識が風化しないかが懸念されている。そこで今回、東日本大震災の体験談や、そこから得られた教訓を関係付けた本校独自の防災マップの活用方法についてお話しいただき、児童に対する防災学習の一助としたい。
内容	<p>（1）防災とは</p> <p>世界中には様々な自然災害が存在している。私たちが暮らす日本でも、地震、津波、台風、火山の噴火、豪雪、ゲリラ豪雨などの災害が毎年各地で発生している。地球自体が動いていて、生きているから、地球上のあちこちで色々な現象が発生し、時にはそこで生活する私たち人間に被害が及んでしまうのである。そう考えると、私たちは自然災害を受け入れ、一緒に暮らしていかなければならない。</p> <p>それでは、自然災害と一緒に暮らしていくにはどのような点に気を付けたらいいのか。それは災害について考えるということ、そして行動するということである。自然災害のことをしっかり理解して、危機感を持つということが大切である。そして、想定以上の備えをすることが、防災、減災の基本になる。</p> <p>（2）災害に対する備え</p> <p>東日本大震災以後、食料、飲み水については1週間分を用意しておくように案内している。災害が起こると、コンビニやスーパーの商品は品薄になってしまうので、少なくとも1週間分くらいの備えは確保してほしい。</p> <p>お風呂の水についても覚えておいてほしいことがある。お風呂の水は、断水になってしまったときに、トイレのお水として使用できる。いつも浴槽にお湯が入っているように習慣づけておくと、災害が発生したときに有効である。</p> <p>また、皆さんが持っている防災マップについても、いつも携帯するようにしていただき、活用してほしい。このマップは地震を想定したものであるが、風水害の情報を盛り込んだものも作成してもらいたいと思う。そしてさらには、非常口や非常階段はどこにあるのか、消火器はどこに設置されているのか等々の情報を盛り込んだ学校の防災マップと、家（マンション）の防災マップについても、皆さん一人ひとりに作成してほしいと思う。</p>

(3) 東日本大震災を踏まえて

約10年前に東日本大震災が起こったとき、私の住む地域では全世帯が5日間停電し、ガスは3～4週間、水道は2週間止まった。指定避難所の茂庭台中学校で、17日間避難所が開設され、最大時は200名の方々が避難していた。地域には高齢者と小・中学生しかいなかった。しかし避難所はすぐに開設しなければいけない。避難所でも会社員や高校生は早朝から通勤・登校してしまうため、運営には彼ら小・中学生の力も必要だった。実際に避難所では、小・中学生が大活躍してくれた。震災当日、私が一時避難場所にいると、中学生が走ってきて、「避難所の準備ができたので避難してきてください。」と伝えてくれた。避難所に移動すると、中学生が自らのアイデアで避難所の床に柔道用の畳やマットを一面に敷いて私たちを迎えてくれた。そのあと、避難所内では必要事項の掲示やごみの分別など、小・中学生が自発的にアイデアを生かして行ってくれた。朝、昼、夕の1日3回、炊き出しを手伝ってくれたのも中学生であった。自衛隊の方々が届けてくれる避難物資を避難所の一角にまとめ、数量がわかりやすいように配置してくれたのは小・中学生であったし、新聞の情報を共有できるように、毎日掲示板に張り出してくれたのも小・中学生であった。毎朝、避難所を掃除してくれたのも小学生である。

このような経験から、避難所では小学生や中学生にも担える役割があるという事を是非認識してほしい。いざというとき、皆さんは大きな役割を担うことができる。覚えておいてほしい。



開催地より

防災の基本についてや、災害に対する備えについて、東日本大震災での体験談をわかりやすくお話しいただいた。また、本校独自の防災マップの活用方法についても指導していただいた。今後も防災に関する指導を継続していくにあたり、今日のお話を参考にしていきたいと思う。